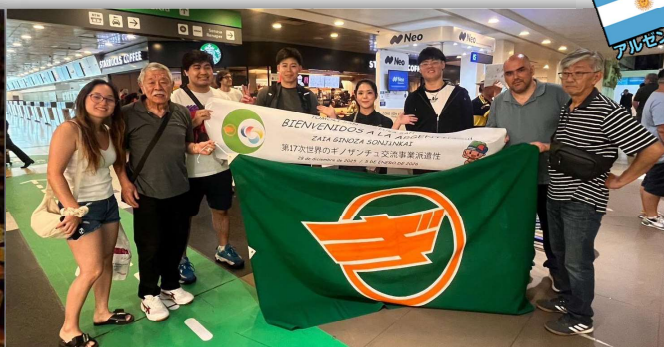


令和7年度 第17次世界のギノザンチュ交流事業 研修報告書

→ Argentina - Peru - Brazil - Hawaii →
令和7年12月26日～令和8年1月30日



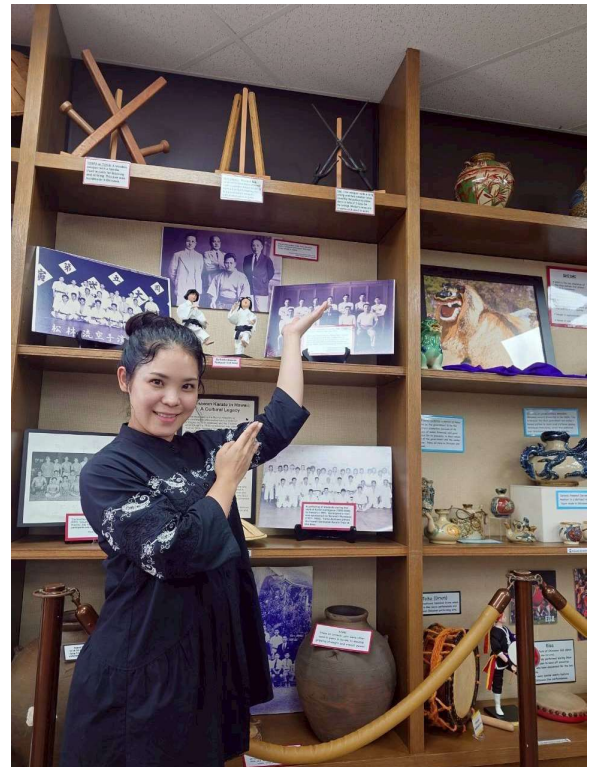
【目次】

報告者 高里風花……………p.1
新垣友貴……………p.16

添付資料 【各国研修日程】
【報告会の様子】

派遣研修生

高里 風花 (惣慶区)



研修日誌

2025年12月26日に沖縄を発ち東京へ。そこから約12時間かけ経由地の米国・ヒューストン、さらに飛行機を乗り継ぎ約10時間後、最初の研修先アルゼンチンに到着しました。研修はその後、ペルー、ブラジル、ハワイを経て、2025年1月30日に研修を共にした新垣友貴さんと無事に帰国いたしました。

研修中は各国の宜野座村人会の皆さんとの交流や日系施設への訪問、各国の歴史・文化施設の視察を行いました。希望研修“琉球芸能分野”では、各地で琉球芸能を愛する皆さんと実際に一緒に踊ったり、インタビューをさせてもらったりと充実した時間を過ごしました。

計36日間の研修は素晴らしい出会いや学びの連続で夢のような日々でした。当真淳村長をはじめとする宜野座村の皆さん、各国宜野座村人会の皆さん、あたたかなサポートをしてくださった宜野座村役場企画課の皆さんに心よりお礼申し上げます。

ここでは、研修の日々の記録をご報告いたします。

1 カ国目 【アルゼンチン】

2025年12月28日～2026年1月5日（9日間）

- ・1913年 沖縄県系人移民
- ・1953年 宜野座村人会設立
- ・村人会の拠点：ブエノスアイレス

○主な訪問先・・・ブルサコ日本人会、ブルサコ日本語学院、イグアスの滝、日亜学院、うるま園、沖縄県人連合会、宜野座村人会の新年会への参加

○希望研修・・・沖縄県人連合会 三線・琉球舞踊お稽古見学

1 日目 (12月28日)

空港に着くと宜野座村人会（以下、村人会）の方々がお迎えにきてくれました。皆さんの温かなお出迎えに長旅の疲れも飛んでいく思いでした。その後、ホームステイ先の長浜さゆりさん（第15次研修生：長浜 スチエル ヘルマン 宗信さんの妹）のご自宅へ。サンモルテへ移動し村人会の方々12名とランチをし、その後ラ・ボカ地区を散策しました。カラフルな家が並ぶカミニートというストリートはタンゴダンス発祥の地だそうです。夜には、村人会の方々が「ウェルカム懇談会」を開いてくださり、いろいろなお話を聞かせていただきました。プロのタンゴショーも鑑賞し、素晴らしい交流の時間となりました。

2 日目 (12月29日)

ブエノスアイレス市内を視察。

- ・コロソ劇場 劇場内ツアー（世界三大劇場） ・Güerrín（有名なピザ屋）
- ・ブエノスアイレス大聖堂（メトロポリタン大聖堂） ・オペリスコ
- ・エルアテネオ（世界で最も美しい書店）

日系施設の視察。

- ◎ブルサコ日本人会 ◎ブルサコ日本語学園

夜は、友貴さんのホームステイ先でアルゼンチンの家庭料理を御馳走になりました。

3 日目～5 日目 (12月30日～1月1日) 【遠征：イグアス】

◎世界最大の滝“イグアスの滝”へ。ブエノスアイレスから飛行機で約2時間の二泊三日の旅、村会の前兼久成子さんに同行していただきました。

初日は国境を超えてブラジル側から歩いて回るコース、二日目はアルゼンチン側から「悪魔の喉笛」を眺めたり、ボートに乗って滝に突進するコースを体験しました。その壮大さ大迫力に感動しながら、あまりにも貴重な経験に、宜野座村と村人会への感謝が溢れました。今回の体験を通して実感した世界の広さ、この感覚を忘れずに持っていたいと思います。

年越しは、ホテルのレストランにて。お正月にブエノスアイレスに戻り、夜はホストファミリーと穏やかな時間を過ごしました。

6日目（1月2日）

第15次研修生の長浜 スチエル ヘルマン 宗信さん、第36次研修生の塚田 伊芸 フランコ 淳さんに同行していただき、◎日亜学院にて校長先生のお話を伺いました。フランコさんの母校でもあるそう。

その後、学校が多くある街ラプラタへ。ラプラタ大聖堂、ラプラタ科学博物館を見学。

夜は、村人会の方々との食事会。フォルクレロという伝統舞踊を鑑賞し、皆さんと一緒に踊りの体験もしました。温かな村人会の皆さんとの楽しい交流でした。

7日目（1月3日） ◇希望研修◇

午前、沖縄県人連合会が所有する運動場◎うるま園へ。

その後、エコパーク（動物園）を視察。

午後は、◎在亜沖縄県人連合会会館にて、希望研修の三線と琉球舞踊のお稽古を見学しました。

（報告書にて詳細まとめ）

夜は、村会の同世代のメンバーと食事をしたりお酒を飲んだり交流をしました。

8日目（1月4日）★新年会★

宜野座村会の新年会！お父さんチームが焼いてくれたアサード（牛や羊、豚などの塊肉を炭火でじっくり焼き上げる伝統的なバーベキュー料理）や各家庭の持ち寄り料理を頂きました。アルゼンチンのお料理はどれも美味しく最高です。

新年会での一番の思い出は、幕開けに元研修生もみんなで琉球舞踊「かぎやで風」を踊ったことです。元研修生の皆さんは研修時に沖縄で琉球舞踊を学んでいるので、せっかくだからみんなで踊りたいと提案しました。お扇子も多めに持って行っていたのでよかったです。これからもみんなで踊ってくれると嬉しいです。その他に「浜千鳥」と「鳩間節」を踊らせていただきました。「浜千鳥」は、遠く離れた故郷や親を思う踊りなので、宜野座村から離れて暮らす移民の皆さんの前で踊れたことは大きな喜びでした。

新年会の参加者は140名を超えていました。毎年参加率が高く、約80%になる年もあるとか。村人会最年長の新里真一さんは、これも研修制度のおかげだと仰っていました。

興味深く覚えているのは、“チャリティー抽選会”です。（報告書にて詳細まとめ）

新年会では多くのギノザンチュの皆さんと交流することができ、地球の反対側に暮らす皆さんと“宜野座”という共通点で家族のようになれたことに感動しました。

夜は、新垣友貴さんの親戚長浜ファミリーと最後のディナーをしました。私は、研修国に親戚がいません。でも各国にいる友貴さんの親戚の皆さんに私まで家族のようによくしていただきました。感謝申し上げます。特に第 15 次研修生の長浜 スチエル ヘルマン 宗信さんには到着から最後の最後まで大変お世話になりました。

9 日目 (1 月 5 日)

アルゼンチン最後の日。朝はホームステイ先の長浜さゆりさん宅の周辺を散策しました。別れを惜しみつつ空港へ。お昼は友貴さんのホームステイ先でご馳走になりました。空港には、村人会会長の第 4 次研修生新里政成さん、第 15 次研修生の長浜 スチエル ヘルマン 宗信さん、第 21 次研修生の新里マリアーナさん、第 36 次研修生の塚田 伊芸 フランコ 淳さん、第 37 次研修生の新里 ラウタロ アグステインさんが見送りに来てくれました。しかし、飛行機のオーバーブッキングが発覚し、次の便へ変更。不安な私達を落ち着けながら皆さんが飛行機会社とのやり取りをしてくださり、また変更後の便の出発までも一緒に待っていてくれました。皆さんの優しさがとても有り難かったです。最初の研修国アルゼンチンでの県人会の皆さんとのあたたかな思い出を胸に、予定よりもだいぶ遅れて 2 カ国目のペルーへ出発です。

2 カ国目 【ペルー】

2026 年 1 月 5 日～1 月 14 日 (10 日間)

- ・1906 年 沖縄県系人移民
- ・1960 年 宜野座村人会設立
- ・村人会の拠点：リマ

○主な訪問先・・・日秘文化会館、ペルー移住資料館、ラ・ウニオン日系人学校、AEUL (ラ・ウニオン日系人運動場)、マチュ・ピチュ (クスコ)、宜野座村人会の新年会への参加

○希望研修・・・新年会 歴代の研修生と共に踊った「かぎやで風」

1 日目 (1月5日)

飛行機の便が変更になり、到着がだいぶ遅れてしまいました。ペルー宜野座村人会会長の太田愛美さん・明さんご夫婦、第 37 次研修生の比嘉 菅嶋 スサナ エミコさんが遅くまで待っていてくれました。予定していた夕食会もキャンセルになり、お弁当を準備していただき、その日は宿泊先のペ・ペ・ペンションで休みました。

到着時間の変更などもアルゼンチンとペルーの県人会同士で連絡を取ってくれていて、各国と宜野座村のみならずそれぞれの国同士も交流あるということを目の当たりにし、世界中で“ギノザンチュ”が繋がっていることに感動しました。

2 日目 (1月6日)

太田愛美さんのご両親、仲田正篤さん・和子さんご夫婦のレストランで朝食を。世界一の朝食とされる「チチャロン」というペルー伝統の朝ごはんを頂きました。

その後、^{にっぴ}◎日秘文化会館の施設を見学、また◎ペルー移住資料館を第 1 次研修生の伊芸銀次さんにご案内いただきペルー移民の歴史に触れ、様々な社会の変化に翻弄されながらも強く生きた移民の皆さんのことを思い胸が熱くなりました。日秘文化会館内にある日本食レストランで昼食後、プレサ日系（日系人新聞社）のペルー日系人協会会長伊芸ホルヘさんから取材を受けました。後日、インタビューの様子を新聞に大きく載せてくださいました。

夕食は、第 37 次研修生の比嘉 菅嶋 スサナ エミコさんとともに中華を食べ、その後、同世代の元研修生や金武町など近隣の元研修生と交流を。楽しい時間を過ごしました。

3 日目 (1月7日)

太田愛美さんの案内で◎AEUL（ラ・ウニオン日系人運動場）、◎ラ・ウニオン日系人学校を見学。AEUL 内にあるプールは愛美さんの設計とのこと。学校は今サマースクール中で生徒はいませんが、ナカソネ・ラウル代表にいろいろな説明をしていただきました。

2 つの施設は、稼働していない時間の貸し出しや、民間会社へのレンタルオフィスがあり、その資金で運営をしているとのことでした。経済のシステムがきちんと整っていることがとても印象的でした。

その後、リマにあるラルコ博物館へ。元貴族の持ち物であった素晴らしい白の建物に鮮やかなブーゲンビリアが咲き誇る、どこを切り取っても美しい博物館。プレインカ時代～インカ時代に渡る様々な展示物が

素敵に展示され惚れ惚れしました。私は学芸員資格を保有しており博物館が大好きなのでレイアウトなども勉強になりました。昼食も博物館内のレストランで頂き豊かな時間を過ごしました。

夜は、ショッピングセンターで同世代の元研修生との夕食を。宜野座での研修時代の話に花が咲きました。

4日目～6日目（1月8日～10日） 【遠征：クスコ】

世界遺産マチュ・ピチュを訪れるため、滞在しているリマから飛行機で約1時間半、かつてインカ帝国の首都であったクスコへ。クスコの街はビルが建ち並びリマとは異なり、歴史を感じる佇まいでした。

1日目は移動。2日目にマチュ・ピチュを訪れました。その素晴らしさに圧倒され言葉を失いました。人生でこのような経験をさせてもらえるなんて、贅沢を感じながら、なかなかできない経験を噛み締めました。感謝の気持ちでいっぱいです。

3日目はクスコ内の様々な遺跡をガイドさんに案内してもらいながら視察しました。ガイドさんからスペインの侵略によって多くの遺産や歴史文化を失ったことを聞き、かつて琉球だった沖縄と重なりました。争いや征服は繰り返される。複雑な思いを今も抱えています。

クスコからリマに戻り、伊芸銀次さんのお宅でなんと！銀次さんお手製のお料理をいただきました。また歴代の研修生もみんなやったという、銀次さんハウス恒例の“ファイヤークッキング”にも挑戦。ご家族や村人会の方々も集まり、皆さんと美味しいお料理を囲む豊かな時間でした。

7日目（1月11日）★新年会★

ペルー宜野座村人会の新年会に参加しました。会場がペルー沖縄県人会館の敷地内だったので、そちらの施設の見学もさせてもらいました。こちらの施設も運営がしっかりしていて管理が行き届いており、ペルーの日系社会の組織化がきちんとされていることを実感しました。

新年会では、会員の日々の成果の発表や表彰、今年度、宜野座村に滞在した研修生のスピーチなどが行われました。ここでも、ペルー同様“チャリティー抽選会”がありました。

幕開けには、元研修生の皆さんも一緒に琉球舞踊「かぎやで風」を踊りました。その他に「浜千鳥」、「鳩間節」も披露しました。演奏も村人会の方が行い、琉球芸能を通して皆さんと交流できたことはかけがえない大切な経験となりました。

夜は、同世代の村人会の皆さんと日本食レストランへ。

8日目 (1月12日)

村人会長太田愛美さんの案内で自習寮幼稚園を視察。その後、第34次研修生 宮城 仲井真ハビエルさんとともにリマ市内にある遺跡、ワカ・ブックヤナ遺跡を訪れました。

夜は、太田愛美さんのお子さんがお誕生日ということでホームパーティーにお邪魔しました。皆様とご馳走を囲んでのお祝いは笑顔があふれる楽しい夜でした。研修先の暮らしに密着した経験をさせてもらえて得難い機会でした。

9日目 (1月13日)

この日は、第36次 研修生 嘉手納 安谷屋 ホセ フランシスコさんにリマ市内を案内していただきました。訪問先は、

・マヨール広場プラザ ・大統領官邸 ・カテドラル ・サントドミンゴ教会 ・サンフランシスコ教会 など。ヨーロッパの文化が大きく残る遺産や歴史を興味深く学びました。

最後に訪れた噴水公園には村人会の仲田斉さんご家族も合流、夜の噴水ショーやアトラクションを楽しみました。公園は、たくさんの人で賑わっていました。無料ではなく少額の入場料を取っているようです。その分、噴水ショーやアトラクションはすごく豪華で充実していて大満足。少額の入場料だと、観光客も地元の方も行きやすく、良い設定だなとかんじました。

ペルー最後の夜は、かつて宜野座村で研修に参加した元研修生の皆様との食事会が行われ、いろいろな思い出話に盛り上がりました。会が終わり宿泊先に戻るとき、別れを惜しみ、みんなで宿まで歩いて送ってくれました。そのことがとても嬉しく、皆さんの愛情に感動した忘れられない夜でした。

10日目 (1月14日)

ペルーを離れる日。早朝に太田愛美さんご夫婦が迎えに来てくださり空港へ。空港で朝ごはんを食べながら、あっという間に過ぎた充実したペルー研修を振り返りました。ペルーでも、村人会の皆さんから多くの愛情をいただきながら、貴重な経験をさせていただきました。心より感謝申し上げます。

3カ国目【ブラジル】

2026年1月14日～1月23日（10日間）

- ・1908年 沖縄県系人移民
- ・1953年 宜野座村人会設立
- ・村人会の拠点：カンピーナス

- 主な訪問先・・・ブラジル日本移民資料館、地元コーヒー工場・café CANECAO、カンピーナス大学（UNICAMP）、リオデジャネイロ→明日の博物館、キリスト像、ディナーショー「ROXY」（リオデジャネイロオリンピック開会式に披露されたショー）、宜野座村人会の新年会への参加
- ◇移民1世の方との会談

- 希望研修・・・玉城流扇寿会 齊藤悟琉舞道場

1日目（1月14日）

3カ国目、ブラジルに到着。ゲートが開くと多くの村人会の皆さんがお出迎えしてくれ、とても嬉しかったです。村会のみなさんが多く住むカンピーナスという地域から、空港のあるサンパウロまで車で約2時間。大きなバンをレンタルして皆さんで来てくれたと聞いてその温かさに感動しました。空港からは、私たちもバンに乗り込みカンピーナスへ。

ブラジル最初の夜は、近くのレストランで歴代の研修生など村会の方々が集まり、私たちを歓迎してくれました。

2日目（1月15日）

地元のコーヒー工場を視察しました。この日も多くの村人会の皆さんが同行してくれました。

その後、南米で3番目に大きいとされるショッピングモールへ。沖縄では体感することのない大きな施設。この研修では、多くの学びとともに、多くの刺激もいただいています。昼食には、村人会移民一世の小渡克昭さんも来てくださり、ともにお食事を楽しみました。小渡さんにはとても良くしていただき、移民に関するお話を伺うことができました。ショッピングモールのあとは、カンピーナスタワー、カンピーナス大学を視察。この日の夕食もたくさんの村人会の皆さんが集まり、交流を楽しみました。皆さん、沖縄や宜野座に対し熱い思いを持っていて、様々な感情を共有する豊かな時間を過ごしました。カエルを食べました。

3日目（1月16日）

長い距離を車で移動し、山の方にあるオーガニックのコーヒー農場へ。農場は様々な工夫で溢れていました。ビニールのハウスは使用せず、コーヒーの木と木の間にバナナを植えることで、バナナの大きな葉が直射日光から守ってくれる、そういう知恵を活用しながら人にも地球にも負担の少ないコーヒー栽培をしているそう。自然や地球に生かされていること、より良い形で共存していくという強い意志を感じました。沖縄や宜野座の農業現場でもそのような意識があるといいなとおもいました。農場を営むご夫婦の旦那さんは歯医者さんもしているそう。素敵に暮らすお二人から“人生を楽しむ”ということも学びました。

カンピーナスに戻り、宿泊させてもらっている村人会会長のモリヤ エジーナ ハルミさんのご自宅で、移民一世の小渡克昭さん、城間信雄さんからお話を伺いました。インタビュー形式で様々な貴重なお話を伺いました。（報告書に詳細まとめ）移民一世の方々から直接お話を伺えたことは、この研修でも特に忘れられない時間となりました。得難い機会に感謝いたします。

4日目（1月17日）★新年会★

歴代研修生の皆さんと近くのクラフトマーケットへ。第30次研修生 マシマ クリスチエ ユキさん、第36次研修生 桑江 ガブリエル タダオさん、第37次研修生 島袋 ヴィニシウス アキラさんが同行してくれました。マーケットでは、様々な雑貨やブラジルの工芸品が並び、土地のものに触れられることにワクワクしながらまわりました。

夕方は、ブラジル宜野座村人会の新年会。持ち寄りで様々なご馳走が並びます。アルゼンチン、ペルー同様、こちらの新年会でも皆さんと一緒に「かぎやで風」を踊りました。ブラジル宜野座村人会は芸能が盛んで、毎年「かぎやで風」は踊れる方々で踊っているそうです。その他にも、移民一世の城間信雄さんを筆

頭に沖縄民謡ショーや、琉球國祭り太鼓に所属する皆さんの披露もあり盛りだくさんの楽しい時間でした。遠く離れた土地で宜野座を想う皆さんとの交流はとても尊く愛に溢れています。

5日目～7日目（1月18日～20日） 【遠征：リオデジャネイロ】

二泊三日の日程でカンピーナスからリオデジャネイロへ。こちらの行程は、第26次研修生 久志 パトリア 良美さんとそのご家族、第37次研修生 島袋 ヴィニシウス アキラさんが同行してくれました。

1日目、サンパウロから移動後、ガイドさんも合流し街を案内してもらいました。・セラロン会談 ・明日の美術館 その他にも様々な場所を巡り、同じブラジルでも地域によって特徴が異なることを実感しました。夜は、リオデジャネイロオリンピックの際にも披露されたというショーを、ディナーと共に鑑賞しました。

「ROXY」というショーです。私は、琉球舞踊を学んでいるので、海外の芸能にも深い興味があります。ショーはもちろん、会場の雰囲気や演出、お客様に“魅せる”ということの勉強にもなりました。

2日目、この日もガイドの方に案内してもらい街をめぐりました。かつて首都だったリオデジャネイロ、役所や大きな図書館など当時のなごりを感じる施設を見学しました。続いて、ロープウェイでボン ジ アスーカルへ。その後、世界最大規模のサッカースタジアム エスタジオ・ド・マラカナン、コルコバードのキリスト像にも行くことができました。どれも得難い経験ばかり。大迫力に感動すると同時に、観光の面において、想像を超えた大きなものや強いインパクトのあるものを生む勇氣が必要だと感じました。大きな投資になりますが、それがうまく運用され数百年後も残るものであれば、私たちの子孫に財産を残すということになります。観光が盛んな沖縄で、できることはなんだろうと考えました。

3日目、リオデジャネイロ最後の日。朝からビーチを散歩し近くの店に入るなどゆっくり過ごしました。

夕方にはカンピーナスに戻りましたが、この日も多くの村人会の皆さんと一緒に夕飯を楽しみました。皆さんからのたくさんの愛情をいただいております。

8日目（1月21日）◇希望研修◇

私の希望研修は、琉球芸能分野です。この日から一泊二日で、サンパウロで精力的に琉球芸能を継承する、玉城流扇寿会の師範である斉藤悟さんの琉舞道場にお世話になり研修をさせていただきました。悟さんとは、面識はありませんでしたが、共通の知人がおり、また SNS も繋がっており、この機会にぜひお会いしたいと希望を出していました。今回、斉藤悟さんとブラジル宜野座村人会の皆さんの計らいで研修が叶いました。

到着後、初めてお会いするとは思えないほど、琉球芸能の話で盛り上がりました。悟さんのお稽古場は、とても立派で沖縄や琉球芸能に対する情熱と愛情を強く感じました。

今回は、2つのお稽古に参加しました。一つは地域の婦人会の方への出張稽古、あと一つは悟さんのお稽古場での通常稽古。

婦人会の皆さんとお稽古は、公民館で行われ 20 数人の方が参加していました。最年長はなんと！ 94 歳！！皆さん元気いっぱい琉球舞踊を楽しんでおり、遠く離れたブラジルで琉球芸能が暮らしの喜びになっていることをすごく嬉しく思いました。

お稽古場に戻り、通常のお稽古へ。悟さんのお弟子さんも一緒にお稽古をしたのですが、流派によって異なる体の使い方を比較するなど、深い交流をすることができました。それは、日頃から悟さんが本物の琉球芸能を追求し、きちんと継承していることの賜物だと感じました。（報告書にて詳細まとめ）

その日は遅くまで意見交換をしたり、琉球舞踊の髪結いの練習をしたり、充実した時間を過ごしました。

9 日目（1 月 22 日）

朝、村人会の方々がカンピーナスから悟さんのお稽古場のあるサンパウロまで、2 時間かけて大きな車を借りて来てくれました。いつも沢山の方が研修に同行してくださりその愛情に感動します。

この日は、サンパウロを巡りました。ブラジル日本移民資料館やチョコレート工場への視察など。夕方にカンピーナスに戻り、この日もみんなでディナーをいただきました。ブラジル最後の夜、多くの村人会の皆さんが集まってくださり濃密な研修の日々を振り返りました。

10 日目（1 月 23 日）

ブラジル最後の朝、移民一世の小渡さんと城間さんが宿泊先に来てくれて 1 時間ほどお話をしました。有り難く温かい時間でした。

その後、空港へ。ここでもたくさんの方が同行してくれました。

天候の影響で便が変更になったのですが、元研修生の方が対応してくれたり、変更後も出発まで一緒にいてくれたり、最後の最後まで村人会の皆さんの愛に包まれました。

4カ国目【米国・ハワイ】

2026年1月24日～1月29日（6日間）

- ・1899年 沖縄県系人移民
- ・1948年 宜野座村人会設立
- ・村人会の拠点：ホノルル

○主な訪問先・・・ハワイ沖繩センター、ハワイ沖繩プラザ、ビショップ博物館、パールハーバー、マウイ島研修→マウイ沖繩会館、マウイ島ギノザンチュとの交流、水族館、ハワイ沖繩文化センター、イオラニ宮殿、ダイヤモンドヘッド
宜野座村人会の新年会への参加

○希望研修・・・玉城流扇寿会ハワイ フランセス仲地琉舞道場

1日目（1月24日）

空港に到着、村人会の皆さんに歓迎していただきました。その後、第33次研修生 石川トリさんのご家族が営むレストランでハワイ料理を村人会の皆さんと楽しみました。

移動後、研修の記念にと村人会からアロハドレスをプレゼントしていただきました。

ハワイ最初の夜は、ハワイで琉球芸能を学ぶ皆さんとの交流会に参加しました。この会は、ハワイで精力的に活動している琉球舞踊家でありギノザンチュでもある渡久地ダズマンさんの企画です。美味しいお料理と地元のお酒を楽しみながら、気がつくとも三線が鳴り、沖縄民謡を歌ったり琉球舞踊を踊ったり、芸能交流の楽しい夜でした。ハワイでは琉球芸能・沖縄文化を大切にしている若い世代が強く団結していることを感じました。

2日目（1月25日）★新年会★

ハワイ宜野座村人会の新年会に参加しました。ここでも歴代研修生とともに琉球舞踊「かぎやで風」を披露しました。その他にも「浜千鳥」「鳩間節」を踊らせてもらい、また渡久地ダズマンさんの踊りもあり、琉球舞踊がハワイ県人の暮らしの中で楽しまれていることを実感しました。

夜は、歴代研修生との交流会を開いてくれました。宜野座村の歴代研修生の他に、隣町 金武町の研修生も参加していただき、お互いのアイデンティティを誇りながらの交流はとても充実した時間でした。

3日目（1月26日）◆希望研修◆

この日の午前はパールハーバーへ。個人的にも訪れてみたい場所だったので緊張しながら向かいました。時に、当時ハワイにいた日系、ウチナーンチュ、ギノザンチュの皆さんのことも思いました。母国が敵国になった日。日系を背負いながらハワイでむかえる戦争。計り知れない苦しみや痛みがあったと思います。戦争によって日常を奪われた方々を思うとき、今を生きる私たちにできることはなんだろうと考えました。私の中でた答えは、“日々を一生懸命生きること”です。抽象的かもしれませんが、そのくらい無力であることも感じました。繋がれた命の感謝し与えられた生を懸命に生きたいと思います。

午後はハワイ沖繩センターへ。ここへ来るのは3回目、前回は2018年に宜野座村の芸能交流事業の際に踊らせていただきました。すぐ立派で美しい施設から、ハワイの沖繩県人のコミュニティの強さを感じます。

その後、希望研修の琉球舞踊 玉城流扇寿会ハワイ フランセス仲地さんのお稽古へ参加させていただきました。お稽古を見学したり、私も踊らせてもらったりと芸能交流を楽しみました。仲地先生にインタビューをしたときに印象的だったお話があります。先生は、「遠く離れているからといって“ハワイ風”にはしない。きちんと意識して本物を継承する。そのために定期的に沖繩に通って、琉球舞踊の技術を鍛えるのと同時に、沖繩の風や土地を感じる事が大切」と仰っていました。先生の強い思いに感動し、胸が熱くなりました。（報告書にて詳細まとめ）

4日目（1月27日）【遠征：マウイ島】

午前にはビショップ博物館へ。ハワイの歴史や文化、島の自然など様々なことを学びました。午後からは日帰りマウイ島へ。同行してくれたのは、村人会会長の第31次研修生デイビッドさんと、村人会の仲間節子さん。マウイにいるギノザンチュの方々との交流や、マウイ沖繩会館の視察をしました。なかなか会うことのできない皆さんとの交流の機会をいただき、タイトなスケジュールの中、調整してくれたハワイ村人会のデイビッド会長に深く感謝いたします。オアフ島に戻り、この日から仲間節子さんのお宅でホームステイになります。

5日目（1月28日）

あっという間に、ハワイ研修最後の一日。この日巡ったのは、・ダイヤモンドヘッド ・ハワイ日本文化センター ・イオラニ宮殿。ハワイの大自然や文化を感じる充実した一日となりました。

研修最後の夜、村人会の皆さんが送別会を開いてくれました。短い日程の中で、充実した研修になるようにと様々な工夫をし、たくさんの学びの機会を設けてくれた皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。スーツケースに入らないほどたくさんのお土産もいただきました。

6日目（1月29日）

お別れの日。村人会の役員の方々と朝食をしながら、研修制度のことや村人会のことなど意見交換を行いました。空港にも村人会の方々が見送りに来てくださり、別れを惜しまました。また皆さんにお会いできますように。これからも様々な形での交流を模索しながら続けたいと思います。

まとめ

振り返ると本当に充実した 36 日間の研修でした。世界のギノザンチュの皆さんとの交流、希望研修の琉球芸能分野、日系移民の歴史、各国の文化や暮らしなど多くのことを見聞きし、たくさんの学びを得ました。かけがえない出会いや経験に心から感謝申し上げます。

◇研修を通して考えた、現代における村人会コミュニティと【世界のギノザンチュ交流事業】の意義◇

移民制度が廃止され純粋なギノザンチュである移民一世の方々から五世、六世へと移り変わる中、また誰もが情報を手にすることができ個々でも生きていける社会になったいま、“村人会”というコミュニティはどのようになっていくのか、【世界のギノザンチュ交流事業】の意義とは何かを、研修の参加が決まってからずっと考えていました。

私は研修先の国々に親戚はいません。しかし、“ギノザンチュ”というだけで本当の家族のように迎え入れてくださり、濃密な日々を過ごしました。そこには“安心”と“信頼”がありました。人間関係において構築することが難しいこの 2 つを、遠く離れた国々で、また血縁関係のないコミュニティの中で得られたこと、この特別な体験が忘れられません。このことは、それだけギノザンチュアイデンティティの絆が強固であることの証のように思います。

また、村人会や研修の継続は未来への可能性を広げるということにも繋がるなと思いました。個々になりがちな現代だからこそ、世界中に頼れる人がいるということは誰もが得られるものではありません。研修中も、飛行機の変更や何かトラブルが合ったとき、四カ国が連携して迅速に問題を解決してくれました。これも村人会や研修制度があるからこそ。世界中のギノザンチュの子孫が困ったときに私たちは助け合うことができます。子どもたちの夢の可能性を広げるお手伝いができます。それらを踏まえて、村人会や研修制度の重要性を強く感じています。

現代における村人会コミュニティや研修制度の意義について様々なことを感じ考えましたが、その大きな軸が“移民一世の方々に対する感謝”であると感じています。

激動の時代に宜野座を遠く離れ、故郷を思いながら同郷の皆さんが集まり、多くの困難を超えて各国にこれだけの強い基盤をつくり残してくれた一世の方々。当時の皆さんにとって、“ギノザンチュ”というキーワードがどれだけ心の支えになったのか、生きていく気力となったのか、それはきっと今を生きる私たちには想像もできないほどであったと思います。その残してくれた絆が、いまでも大切に受け継がれています。“ギノザンチュ”というアイデンティティを誇りながらこのコミュニティを残していくことは、これからの世代にとっても意義深いことであると感じています。

最後に、これほどの貴重な経験をくださった当真淳村長をはじめとする宜野座村の皆さん、各国宜野座村人会の皆さん、あたたかなサポートをしてくださった宜野座村役場企画課の皆さんに心よりお礼申し上げます。

派遣研修生

新垣 友貴 (宜野座区)



12月26日(金)

出発の朝、長期間の海外研修に興奮や緊張もあったが、宜野座村を代表して参加できる誇りと感謝の気持ちで出発の挨拶をしに役場へ向かった。

AM10:00 家族、そして企画課職員に見送られ那覇空港へ。旅行者の方と合流し、傷害保険の確認や飛行機乗り継ぎ、その他諸々の確認等行い、荷物預けとチェックイン。荷物は、大きいスーツケース(23 kg) 2 個。本日は東京(羽田空港近く)で1泊し、明日の乗り継ぎ先、ジョージ・ブッシュ・インターコンチネンタル空港【アメリカ・ヒューストン空港】へのフライトに備えた。

12月27日(土)

羽田空港国際線ターミナルにつき、父方の祖父の遺品(米\$、レアル【ブラジル】、中国のお金)などを預かっていた為、すべて米\$に換金し、ブラジルのサンパウロ在住の親戚へお渡しする準備をした。

本日のフライトは、ヒューストンまで、約12時間。ヒューストン空港でトランジェント10時間後、ヒューストン空港からミニストロ・ピスタリーニ空港【アルゼンチンのブエノスアイレス・エセイサ空港】まで約10時間半と長時間に渡る大移動。

ヒューストン空港でのトランジットが長く、仮眠をとり次のフライトに備えた。

ヒューストン空港までの機内は日本人が多く、機内アナウンスも日本語で安心感があったが、アルゼンチンへ向かう飛行機では、一気にお客、アナウンス、客室乗務員と外国の雰囲気になり少し緊張感が出た。

12月28日(日)

アルゼンチン時刻10:00。ブエノスアイレスのエセイサ空港に無事到着し、アルゼンチン宜野座村人会 新里政成会長をはじめ、7名の方が出迎えてくださった。

その中には、私の親戚で24年前に祖父(故:長浜宗夫)宅で受入していた第15次歴代研修生の長浜ヘルマン宗信さんと久しぶりの再会を果たした。

また、私が本交流事業を担当していた時の研修生、前兼久千里さん(第35次研修生)と塚田フランコ淳さん(第36次研修生)も来てくれた。

宗信さんの妹にあたる、さゆりさん宅にて休息をとりながら24年の話を宗信さんから聞くなど懐かしい話で盛り上がった。

お昼は、村人会メンバーとの昼食。そこには仲間バニアさん(第13次研修生)、新里マリアーナさん(第21次研修生)、新里ガブリエラさん(第27次研修生)も来てくれた。

その後、ブエノスアイレスのラ・ボカ地区にあるカミニートを周遊し、村人会が歓迎会を開いてくださり、一世である新里真一さん(惣慶区)屋宜宣順さん(漢那区)他、約40名の方々と交流することが出来た。

本日からホームステイ。ホームステイ先は、私の母のまた従兄弟にあたる玉城ビクトルさん。

家族みんな日本語が話せない為、スマートフォンで訳しながら、トイレやお風呂の使用について

教わった。

気づいた点

- ・12月末のアルゼンチンは、夏で気温も35°Cを超えるが、沖縄のような湿気は無い。
- ・南米の家ほとんどが室内土足でペットを飼っている世帯が多い

驚いた点

- ・商店街のトイレは、係員が居てトイレトペーパーは使用は限りがある。ペーパーは、流せない。
- ・

12月29日(月)

初のホームステイ先での朝。ビクトルさんの奥さん、末子さんがアルゼンチンの定番、ハンミー、サンドを作ってくれた。時差ボケも残っていたが、本格的に始まる研修に向け気合を入れた。

ホームステイ先は、家族で電化製品販売所を運営。朝少し見学した。

本日はブエノスアイレス市内視察という事で、宗信さんとマリアーナさん、フランコさんとその姉妹でオペリスコやコロソ劇場、大聖堂の見学を行った。

夕方、ブルサコ日本人学校の見学では、校長の新里ファビアナさん(村人会)が学校説明をしてくれました。

現在は夏休みという事で生徒はいなかったが、学校の状況など色々聞くことが出来た。学校の本が年々古くなっているということを以前から聞いていたので、村から絵本や漫画を10冊ほど校長先生へ贈呈した。

学校の隣では、小さな体育館と稽古場があり、日系の方中心とした卓球クラブが活動していて、千里さんも頑張っていた。

稽古場では、屋宜宣明さん(第2次研修生)の土地流空手道場があり、約10名の生徒が稽古に励んでいた。

その後、21:00から私のホームステイ先で歓迎会が開かれ、

ベランダにある焼き釜ではアルゼンチンの名物、アサードにチョリーソ、モルシーシャという牛肉のアバラ、腸類が焼かれていた。

歓迎会には、母方の祖父の従兄弟、八重子さん、竹子さん、菊子さんが来てくれ、ワインで乾杯した。

私の親戚とアルゼンチンで乾杯する日がくるとは想像もしていなかったので、とても感慨深い時間となった。

12月30日(火)

昨日の歓迎会の後、1時間睡眠をとり空港へ。

本日から2泊3日でイグアスの滝研修。国内移動という事もあり、

飛行時間約1時間半でイグアス空港へ。機内からは広大なジャングルが見えた。子供の頃テレビで見ていた動物奇想天外のような景色が広がっていて鳥肌が立った。

イグアスへは千里さんの姉、成子さんが同行して下さった。成子さんは旅行会社に努めていると
のことで、日本語も万能。

昼食をとり、バスでブラジルに入国し滝へ向かった。

現地へ着くと、これまたNHK 自然番組で見ていたような広大なジャングルに迫力のある滝。

また自然も豊かで15 cm程度のトカゲや綺麗な蝶が沢山いた。

滝付近はもちろん湿気が多くとても暑い。

ガイドさんもとても親切で色々な場所から記念に写真を撮ってくださり、思い出に残る時間とな
った。

驚いた点

- ・車での入国の際、長蛇の車の列。(国境を超えるのに2時間以上)

12月31日(水)

本日はアルゼンチン側からイグアスの滝へ。

昨日は上から滝が落ちてくる様子を見る形であったが、今日は上から滝が下に落ちていく様子が見
れる有名なスポット「悪魔の喉笛」を見ることに。

アルゼンチン側もサルやオオトカゲ、ハナグマ（アライグマの一種）がいた。

悪魔の喉笛付近へ着くと、年末という事もあり、沢山の観光客で賑わっていた。

そこには想像を絶するような滝が。イグアスの滝で最も水量が集中する最大の場所で凄まじい轟
音で圧倒され、自然の驚異を知った。

午後は、実際小型船に乗り、イグアスの滝を肌で体感することが出来、全身ずぶ濡れに。

小型船の運転手はアトラクションのような激しい運転で乗客を楽しませていたが、川にはワニが
口を開けて待っている姿も見られた。

アルゼンチンは、今日大晦日。

イグアスの宿舎では年越しディナー&ライブショーが催され、三人で貴重な年越しを過ごした。

1月1日(木)

イグアス→ブエノスアイレスへ移動

ブエノスアイレスへ戻り、さゆりさん宅の庭で正月ということもあり、

親戚の方とパーティーを楽しんだ。

・驚いた点

アルゼンチンの正月は、普通の日と変わらず正月ムードではなかった。

1月2日（金）

ブエノスアイレス日亜学院

ラプラタ市内視察【大聖堂・科学博物館】

第36次研修生のフランコさんが通っていた日亜学院へ。

1927年に設立と歴史のある学校で、1999年には秋篠宮文庫を開設。2010年には日本語、英語、スペイン語の三か国語教育公認校として文科省から正式認可が下り日本語クラスが必須となったという。

戦時中は日本が敵国であった為、学校は閉鎖され隠れて勉強している生徒もいたとのこと。

市内視察ではとても大きな大聖堂と科学博物館へ。

博物館では、ラテンアメリカ最大の博物館で植物から小動物に哺乳類と多くの骨格標本や化石、先住民の工芸品などが展示されていた。

その後、母のはとこのノブさんが経営している会社を見学。

ノブさんは科学者として水力発電関係で大きな賞を頂いていた。

私の親戚がアルゼンチンで活躍していてとても嬉しい気持ちになった。

この日の夕食会では村人会の皆さんとフォルクローレショーを鑑賞。ダンスの体験もさせていただいた。とてもリズムカルでステップを習得するのに手こずったが、村人会の声援もあり素敵なダンスをお見せすることができた。

1月3日（土）

沖縄県人連合会運動場【うるま園】

エコパーク植物園

沖縄県人連合会【三線・琉球舞踊研修】

この日は、ノブさんと新里政成会長、マリアーナさん、清水エレキセルさん、清水ミカさんがついてくださった。

県人会のイベントを行ううるま園ではとても広い敷地があり、その中にはプールやグラウンド、懇親会場など充実した施設が備わっていた。

また、県人移民100周年記念碑もあり一世の沖縄県人の方々の名前が刻まれていた。

そこには私が幼少期にエンパナーダをよく作ってくれた祖父の従弟夫妻の名前の刻まれていてとても感慨深い気持ちになった。

うるま園の後はエコパークへ。エコパークには日本ではなかなかお目にかかれないバイソンにきれいな色をした孔雀、オオトカゲなどがいた。私が1番見たかったプーマは残念ながら姿を現してくれなかった。

沖縄連合会館では三線と琉球舞踊講座の見学と稽古。

県人会のメンバー中心に約10名の生徒が毎週土曜日に約2時間稽古を行っているとのこと。

気づいた点

アルゼンチンの動物園はあまり柵がなく、人に危害を加えない小動物は野放し状態。

1月4日（日）

村人会新年会

新年会には140名の村人会の皆さんが集まってくださった。

早朝からアサードやモルシージャ、チョリソなどの肉が大きな窯で焼かれ、
役員の皆さんに元研修生たちが準備に励んでいた。

そして多くの村人会の皆さんが私たち二人を歓迎してくれた。

私は昨年まで村の広報誌を作成し、各国へ郵送する手続きをしていました。今回この新年会の場で村会の皆さんに配布している様子を実際に見ることができ、この業務の重要性を再認識できた。

この新年会では私たちの歓迎会と昨年宜野座村で研修した新里ラウタロさんの研修報告会などが行われた。

私と風花さんはスペイン語と日本語で自己紹介。会の最後にはみんなで村民音頭を披露。恥ずかしながら初めて村民音頭を村会の先輩方から教わりながら踊ることができとても貴重な時間となった。

私が想像していたより、村会の人数が多くいて、子供からお年寄りの方まで各世代がバランスよくいる感じがした。

新年会が終了しても私たちが帰るまで多くの方が最後まで交流してくださった。そしてそれぞれの家族と密に会話し村会の歴史を深く知るいい機会となった。

1月5日（月）

アルゼンチン→ペルー

空港へ向かう前に、長濱の親戚の皆さんと昼食を食べながら交流し、叔父の従弟（ノブさんの父・長濱宗男）の仏壇で手を合わせた。

その後フランコさんが私たちを家に招いてくださり、フランコさんの家族から祖先の話やフランコの沖縄での研修を振り返りながら話を聞くことができた。

ペルーへ向かう便の席がオーバーブッキングにより、4時間後の便へ変更になってしまったが、空港へ見送りに来ていた村会の皆さんがいち早くペルー村人会長へ連絡してくださった。この一件で各国村会の連携が日ごろから密に行われていると知ることができた。

○気づいた点

四か国の子弟研修生が帰国後もSNS等を通してコミュニケーションを密にとっているおかげで今回オーバーブッキングがあっても落ち着いて連携を図り、無事飛行機に乗ることができた。

海外でのオーバーブッキングはよくある。

ペルー（リマ空港）到着

ペルー村人会長 太田愛美（第14次歴代研修生）と旦那さん、そして第37次研修生の比嘉恵美子さんが私たちを出迎えてくださった。

ペルーの気温は温かく、過ごしやすい気温であった。

驚いた点

・車間距離がとても近く、クラクション音が鳴り響いていていつ事故が起きてもおかしくない状況が伺えた。

1月6日(火)

村人会の皆さんと朝食交流→日秘文化会館→歴代研修生との夕食交流会

仲田正篤さん and 和子さん夫妻（愛美さんのご両親）が営むレストランで朝食交流会で当店の定番料理「チチャロン」というカモンテという芋と豚肉のハンバーガーを頂いた。

その後は、日秘文化会館内にある図書室や武道場、コワーキングスペース等、各施設を見学。当館は、1917年に設立されペルーにおける日本人移民の歴史や文化交流の象徴的な拠点の一つとなっている。日系人会長の伊芸銀治さん（第1次歴代研修生）が、館内にある資料館では日系人の移民の歴史を詳しく説明して下さい、良い機会となった。

また、プレサ日系新聞社さんが私たち二人の本事業の研修に関してインタビューして下さい、私自身も本研修の目的を再認識できた。

夜の歴代研修生らによる歓迎会では、仲嶺ロージェルさん（第24次歴代研修生）と比嘉恵美子さん他、各県人会メンバーと交流し、ペルーの酒（ピスコサワー）とダンスでペルー文化を堪能した。

関心を持った点

- ・現在ペルーには約10万人の日系人がいる。
- ・1924年から「呼び寄せ移民」と言ってペルーに定住した日本人が知人や家族を日本から呼び寄せる時期があった。

1月7日(水)

ラウニオン日系人学校・体育施設→ラルコ博物館→ラルコマールショッピングモール視察→歴代研修生と夕食会

ラウニオン学校では、教育方針や学校の歴史を学んだ。当学校は、1924年に「リマ日本人学校」として設立されペルーで最も規模の大きい学校とのこと。

また、隣接している体育施設では、体育館やプール、サッカー場に陸上競技場などがあり、夏休み期間中の生徒が各種スポーツに取り組んでいる様子を見ることが出来た。

そこで青年会活動「日本でいうジュニアリーダー」に励んでいる嘉手納フランシスコ（第36次歴代研修生）の姿もあった。彼は私が令和6年に受入事業を担当していた時の研修生で、持ち味のリーダーシップを発揮し、各国から訪れている学生の世話をされていて、嬉しい気持ちになった。

その後、ペルーの古代文明、特にインカ帝国以前の文化に焦点を当てたラルコ博物館の見学。夕方から恵美子さんとロージェルさん、そして仲井真ハビエル（第34次歴代研修生）も合流し、ペルーのミラフローレンスにあるラルコマールショッピングモールへ。

気づいた点、関心を持った点

・ラウニオン日系人学校では5割が日系人で5割が外国人。当学校では国際バカロレアとってスイスの国際バカロレア機構が提供する、探求心や国際的な視野を養う世界基準の教育プログラムを導入している。

1月8日(木)

リマ空港→クスコ空港へ移動

この日からクスコへ2泊3日の国内研修。クスコ空港は3,300mと気圧が低下するとのことで、恵美子さんからのアドバイスで朝食と昼食は低カロリーで消化しやすい料理を食べた。

クスコへ到着すると予想以上に気圧の低さを感じた。

クスコからマチュピチュへ移動する途中で、クスコの先住民のケチュア族から話を聞く機会を頂けた。また私達3名とも伝統の衣装を羽織る体験や、実際にアルパカや羊の毛で衣装を制作する工程を見せてもらうなど、とても貴重な経験となった。

クスコ空港からバスと電車で移動すること約4時間。その道中で車窓から見える景色の変化は、昔見ていたテレビ番組【世界の車窓から】を思い出させた。

夕食はアルパカのステーキを頂いた。想像していたより匂いと味は癖がなく、歯ごたえのある身が引き締まった肉であった。

1月9日(金)

マチュピチュ（インカ帝国遺跡）視察

ホテルからバスでマチュピチュ入口まで30分。高度は2,450mで昨日ほどの気圧の低さは感じなかったが、歩きの移動が多くすぐ息が上がった。

入口ゲートをくぐると、ワイナピチュ山が少し雲で隠れていたが、とても広大な景色に圧倒された。遺跡の背景に映る尖った形状の山がワイナピチュでその遺跡を挟んである山がマチュピチュとこのことを初めて知った。

その後、約1時間かけてガイドの案内のもと、古代インカ帝国の遺跡を巡り、歴史を学んだ。遺跡の真ん中には、自然のリュマがくつろいでいる様子が印象的であった。

1月10日(土)

クスコ市内視察→リマ移動→伊芸銀治さん宅にて食事会

クスコ市内は、石畳の道やインカ時代の石組が所々見られた。

遺跡巡りでは、伝統的な祭りでインティ・ライミ（太陽の祭り）が開催されるサクサイワマン遺跡や水の聖なるものとして礼拝の文化があるタンボマチャイへ。

リマへ移動後は、伊芸銀治さん宅にて夕食会。

毎年、村の派遣研修生が来た際の恒例行事となっているとのこと。銀治さんご夫妻のご厚意に感謝し、ロモサルタードやマラクワナジュース（パッションフルーツジュース）などのペルーの郷土料理の作り方を教わった。

銀治さんの娘さんで伊芸ソニアさん（第21次歴代研修生）も来ていただき、当時の研修の話や体験談など意見交換することができた。

銀治さん宅には、父の銀勇さんの仏壇と銀勇さんが残した資料などが置いてあり、毎年研修生にお見せしているとのこと。これまでご尽力されてきた活動が沢山資料として残っており、偉大さを肌で実感し、もっとそのような歴史について触れるべきだと痛感した。

1月11日(日)

沖縄県人会長訪問 村人会の政友会

この日は村人会バスでペルー沖縄県人会 会場へ移動。

政友会では約80名の村人会の皆さんが集まってくださった。

そこで私の母方の祖父の家で受入していた、嘉手納 長浜 イバンさん（第21次歴代研修生）と18年ぶりに再会を果たした。

私の母のはとこになるイバンさんですが、現地でイバンの母 トミ子さん（祖父の従兄弟）から話を聞くと事前に調べていたルーツの情報に誤りがあった。今回こうして現地で新たな情報を知ることが出来たのは大きな収穫となった。

会では、恵美子さんの研修報告や、風花さんの琉球舞踊の披露が行われた。

また、風花さんの計らいで歴代研修生と私がかぎやで風を披露。

その中でとても印象に残ったのは、伊芸ヘラルドさん（第30次歴代研修生）さんと【ギノザンチュヤイビン】を熱唱したこと。感慨深い時間となった。

1月12日(月)

自習寮幼稚園視察→ワカ・ブックヤナ博物館視察→太田家にて食事会

自習寮幼稚園（サンタベアトリス幼稚園）では、過去にも村人会が多く通ったという。

また、98年の歴史があり、シンガポールの保育方針に基づいているとのこと。

夏休み期間中とのこともあり、100名の園児が授業に取り組んでいる様子を見ることができ、またダンス授業では、私達研修生も授業に参加し、子供たちとリズムカルで特殊のダンスを踊った。ハビエルさんと博物館の視察を終えた後、愛美さん宅にて息子の誕生会が行われるとのことに参加した。

太田家のご家族に歴代研修生で、愛美さんの息子 みなと君をお祝いした。

1月13日(火)

親戚交流→リマ市内視察→歴代研修生との送別会

政友会でお会いした親戚の長濱イバンさんと母のトミ子さんが私の宿まで来てくださって、

長浜家の当時の話を聞くことができ、先祖の事について詳しく知ることが出来た。

その後の市内視察では、嘉手納フランシスコさんが案内して下さった。

リマ噴水公園では、日本では見られない噴水ショーがとても迫力があり、

平日にも関わらず多くの客で賑わっていた。

驚いた点

- ・ペルーではバナナは、フライにしてフルーツではなく、ご飯と食べる。

1月14日(水)

ペルー→ブラジル 移動日

早朝6:00、太田愛美さん、明さんが私たち二人を空港まで送迎して下さいました。

ペルーから約5時間かけブラジル（サンパウロ空港）へ移動。

サンパウロ空港へ到着し、モリヤエディナ春美村人会長を始め、約10名の村人会の皆さんが、私たち二人の顔写真が入った横断幕を掲げ、出迎えて下さった。

その中には、澤田リリアンチェミさん（第33次歴代研修生）や仲本アリネひろみさん（第34次歴代研修生）に知念清一さん（第35次歴代研修生）、島袋あきらさん（今年度の研修生）とここ最近の歴代研修生が多く居て、驚いた。

サンパウロ空港から約2時間かけ、カンピーナスへ。

夜は、約20名の村人会の皆さんと大きなハンバーガーを食べながら交流した。

また同じ宜野座区出身の久志たつおさんともお会いし、ブラジルでの久志家の話や、現在の宜野座区豊年祭や区民についての情報を共有するなどいい時間となった。

桑江ガブリエルタダオさん（第36次歴代研修生）と久しぶりの再会を果たした。彼は私が担当していた時の研修生で、日本語が研修生の時より上達していて感心した。

気づいた点

- ・ブラジル村人会の青年は、日頃からウチナー文化（エイサー、琉球舞踊、三線）に触れている方が多く、日本語を話す人が多い。

1月15日(木)

カフェ・カネコン工場見学、ショッピングセンター、カンピーナス市内視察、村人会との夕食会

カネコン工場見学では、コーヒー豆の選別から焙煎、粉碎、そして包装に至るまでの全工程を間近で見ることが出来、またそのできたてコーヒーの試飲までさせてもらった。

その後ブラジルで3番目に大きいショッピングセンターで、村人会との昼食。

そこには、一世の小渡克昭さん（松田区）も来てくださり、歓迎して頂いた。

夕食会では約20名の村人会の皆さんが来てくださり、料理には蛙の唐揚げがふるまわれた。

1月16日(金)

コーヒー農園視察→村人会初代役員との意見交換会

午前中は、久志良美さんの知り合いの無農薬栽培のコーヒー農園へ。

20,000 m²ある農園を二人で管理しているとのことで、昨日とは規模が異なるが、収穫から包装までの工程を農園内にある工場を見学しながら説明してもらった。

コーヒーの木が直射日光に弱いという事で、両サイドにコーヒーの木より高いバナナの木を植栽するなど工夫していた。

午後は、一世の小渡克昭さん（90歳）と城間信雄さん（松田区 84歳）との座談会
座談会での内容

・村人会初代会長は、當眞シショウさん（松田区）

移民の経緯

・城間さん〔戦前からブラジルへ移民している祖父が戦後の沖縄状況をみて、移民（呼び寄せ）を提案した。〕

・当時は、船での移民でロサンゼルス経由。45日間かけて移動。

・移民してからの移民した人の職業は主に農業、レストラン、スーパー。

・日本の高度成長期に1990年、ブラジルから日本へ出稼ぎに行く人が多くいた。

女性は弁当屋、男性は車の整備関連。

その後は、県人会で毎週行っているカラオケ大会に向けての練習見学をし、

村人会のメンバー約30名とシュラスコの有名なレストランで、ブラジルの食文化を学びながら、美味しく頂いた。

1月17日(土)

クラフトフェア→新年会

午前中はクラフトフェア

※クラフトフェアとは、日本でいうフリーマーケットと雰囲気は似ていてブラジルの各地の伝統的な手工芸から現代的な作品まで幅広く展示・販売するフェアのこと。

新年会では、約100名の方が参加し、各家庭の一品持ち寄りのウチナー料理が振る舞われた。

舞台では、風花さんと私、そして村人会の舞踊家の方々に歴代研修生とのかぎやで風で幕開け。

私が宜野座で区の伝統「京太郎」を踊っていることもあり、歴代の研修生らと京太郎を披露するという初のブラジル演舞となった。

今年11月にブラジルでは村人会創立45周年記念式典が行われるという事で、村会の青年も京太郎を披露したいと話しており、私も是非披露して欲しく、オンラインを繋げてサポートしていこうと思った。

その後も風花さんの舞踊「浜千鳥」「鳩間節」の披露や、村会の皆さんによる三線に琉球國祭り太鼓の迫力ある演舞などで、地元愛を感じた。

1月18日(日)

カンピーナス空港→リオデジャネイロ空港

リオデジャネイロ市内視察（博物館、サンバショー）

比嘉 セルスさん、良美さん夫妻と息子のりゅうじ君、今年度研修生の島袋あきらさんとリオデジャネイロへ。

カンピーナスより気温は高く、蒸し暑さを感じた。

有名な観光スポットのセラロン階段では多くの観光客で賑わっている中、貧しい方も沢山いて驚いた。自分の持ち物に注意を払いながら市内を散策した。

夜は、リオデジャネイロの名物 サンバの観賞。

今回、観賞した団体は、2016年に行われたリオオリンピックの開会式に出演したサンバを五感で感じられるとても貴重な時間となった。

気づいた点

- ・観光地には多くのホームレスやスラム街があり、国内でも場所により、貧困の差を感じた。

1月19日(月)

リオデジャネイロ 2日目

（リオデジャネイロ市役所→市議会館→ボン・ジ・アスーカ→マラカランサッカースタジアム→コルコバードのキリスト像）

今日はリオオリンピックで使用されたマラカランサッカースタジアムやロープウェイで町周辺を見渡せるボン・ジ・アスーカに世界的に有名なコルコバードなど南米屈指の絶景と世界遺産を肌で感じられる1日となった。

1月20日(火)

リオデジャネイロ→カンピーナス 移動日

リオデジャネイロ最終日に観光地として有名なビーチへ来たが、あいにくの雨で観光客もいなく寂しい雰囲気であった。

カンピーナスに戻り夜は、約20名の村会のメンバーと食事会。ブラジルへ来てほとんどの日、

大勢の村人会の方々が交流しに来てくれた。

毎日我々の為に集まってくださる皆さんの手厚いおもてなしにとっても感謝の気持ちでいっぱいであった。

1月21日(水)

カンピーナス→サンパウロ（ブラジル沖縄小林流空手道古武道尚武館 稽古、親戚交流、知念清一さん家族との食事会）

カンピーナスからサンパウロへ2時間かけて車移動。今日は比嘉セルスさん（良美さんの旦那）が通っている空手道場へ。

仲地ルイス師範（本部町出身）から小林流という流派の空手を教わることに。私は幼少期から8年間、極真空手をしてきた。極真空手は、顔面の攻撃ありといわば何でもありのスタイルで、練習の終盤では組手の稽古を行っていたが、サンパウロの小林流道場は、大きく違った。

組手の稽古は一切なく、突きや蹴りの基礎稽古から型の稽古。力技は一切使わない、大きな相手をいかに技で倒すか、力を入れるタイミングなど徹底して3時間稽古して頂いた。

他の流派を学ぶことで沖縄空手の知識やこれまでの歴史など幅広く知ることが出来た。

その後、30年以上も連絡が取れていない私の父の従妹とお会いした。

父の従妹、比嘉シズコさん（84歳）と息子のファビオさん（44歳）。コロナ前にブラジルから宜野座へ届けられた手紙に記載されている住所をもとに、村人会の方々が探して下さった。

そして今日は良美さんとセルスさん、エジナ会長が通訳して下さい、親戚から色々な話を聞くことが出来た。

父方の祖父の妹が移民し、5名の子どもをサンパウロで養っていた。その末っ子がシズコさんである。シズコさんの他の兄弟と旦那さんはみんな他界し、子供1人（私のはとこ）と二人暮らしであった。お会いしてすぐ、「よく来てくれた。」と手を握ってくれた。ブラジルという遠く離れた場所に住んでいてもシズコさんからは「ファミリー」という愛情が伝わってきた気がした。

26年前に他界した祖父は、2回もブラジルへ来ていたとのことで、宜野座にいる家族が誰も知らない祖父の話を知るととても貴重な時間となった。今日初めて会ってくれた親戚、そしてこのような機会をくださった村人会の皆さんに感謝の気持ちで、感極まった。

1月22日(木)

サンパウロ市内視察→送別会

午前中は、ブラジル日本移民資料館を視察。

1908年からの日本人移民の歴史、生活、農具など約97,000点以上の資料が展示されていた。

ブラジルへ移民する日本人の長い船旅事情や、初期の厳しい環境、その後ブラジルの社会へ溶け込んでいく様子など現地では知りえない情報が多くあった。

夜の村人会とお別れ会では、約30名の方が会いに来て下さった。

来年開催される第8回世界のウチナンチュ大会に合わせて沖縄へ行く準備をしているとの声もあ

り、私達も盛大にお出迎えし、おもてなししようと思う。

そして、それまでの期間 SNS 等を活用してより密な連携が必要だと再認識できた。

その後、カンピーナスに 1 カ所しかないカラオケボックスへ。小渡克昭さんも初めてのカラオケという事で「上を向いて歩こう」を熱唱して下さった。

桑江ガブリエルさん家族は、県人会のカラオケ大会でも賞を取っているとのことで、素晴らしい歌唱力で演歌や HY の有名ソングを歌うなど、ブラジル最後の夜を楽しむことが出来た。

1月23日(金)

比嘉スーパーでの買い物→サンパウロ空港→シカゴ空港（経由）→ホノルル空港

サンパウロ空港へで多くの村人会の皆さんがお見送りに来てくださった。

空港で 9 日間の充実した 1 日 1 日を思い出して、感極まった。

今回、次世代を担う青年と毎日交流できたことが、いい形で今後につながるいい機会となった。

サンパウロ空港で、次の便の手続きをしている中、当初予定していたヒューストン空港への便が現地の吹雪により欠航となったことを知らされた。

ホノルル空港到着時刻に大きく影響が出ないか心配している中、桑江ガブリエルさんがシカゴ行きの便の調整をしてくれた。

村人会の一人として私たちが無事に、送り出そうと責任をもって調整してくれたことに感謝するとともに彼の逞しさを感じた。

ブラジル村人会の皆さん、本当にお世話になりました。

知った事

ここ数年、子弟研修生として研修に参加したい若者が増えつつある。

1月24日(月)

ホノルル空港到着

シカゴの到着時の気温が -24 度。

ホノルル空港へ着き温度計を見ると 24 度と寒暖差、約 50 度と貴重な体験となった。

ハワイの雰囲気は沖縄にすごく似ているが、湿気がなくとても過ごしやすい。

空港では、新里デイヴィッド村人会長に前ハワイ沖縄連合会長の渡部さん、いつも村のジュニア海外語学研修で中高生のホームステイをして下さっているせっちゃんさん、なっちゃんさん。

新里ジョン（第35次歴代研修生）さんに今年度研修生のケイスさんをご両親がお出迎えしてくださった。

到着が15:00で少し遅めお昼食会では、渡久地トリ（第34次歴代研修生）さんの親戚が営むレストランでハワイの伝統料理であるポイやカルア・ピッグ、などを頂いた。

その後アラモアナショッピングセンターでアロハシャツをプレゼントしてもらい、風花さんが県立芸大時代、ハワイから留学できていた渡久地ダズマン（宜野座区）さんの誘いで琉舞関係者とのウェルカムパーティーに参加した。

そこでは、県人会の方が三線を引いて、風花さんが踊りを披露するなど盛り上がった。

沖縄にいるかのようなひと時であった。

初日で南米で感じたようなウチナーンチュの絆を強く感じた。

※ポイ タイモを蒸してつぶし、ペースト状にした料理。

※カルア・ピッグ 豚肉を伝統的な地中カマド「イム」で蒸し焼きにした料理。

1月25日(日)

新年会→歴代宜野座・金武研修生との交流会

今日は新年会で11:00から会場入り。

約70名の村人会の皆さんが来てくださった。

ハワイは宜野座区にルーツがある方も多くいて、前回開催された村の芸能公演の話や区の綱引きや豊年祭などの区行事に興味をもってくれていた。

私たち自己紹介のスピーチは二人とも英語で話したが、その中でも風花さんは台本なしのありのままに英語で自己紹介をしていて、私ももっと英語を学ばないと感じた。

新年会では今年度の村人会費用の決算報告やケイスさんの研修報告に80歳以上の方への記念品贈呈式が行われてた。

ハワイとの交流事業も南米に比べて歴史が浅い分、青年の参加が少ないと来ていたが、想像していたより若い年代の方も参加している様子が見られた。

新年会后、「世界ふしぎ発見！」でおなじみの日立ツリーがある公園へ。

テレビで見ていたよりも、迫力が段違いで圧倒された。

夜の歴代研修生との交流会では、僕が受入事業担当していた頃の金武の研修生、キャリーさんと久しぶりにお会いし、当時の研修生時代の話や帰国後の活動について話した。

1月26日(月)

パールハーバー→ハワイ沖繩センター→希望研修（玉城流扇寿会 フランセス仲地琉舞道場、少林流ハワイ聖武館）

この日は、新里ジョンさんと仲間さんとパールハーバー視察からスタート。

日本人にとっては一度は行くべき場所である。

パールハーバーとは真珠湾を意味し、1941年に日本軍が奇襲攻撃した湾として知られています。

真珠湾センターの展示やUSSアリゾナ記念館で当時の歴史を深く知ることができた。

沈んでいる戦艦アリゾナから未だにオイルが水面へ浮かび上がっていて、これは「遺族者の涙」と言われているとのこと。

その後、ハワイの郷土料理「サイミン」を食べて、ハワイ沖繩センターへ。

当センターは、ハワイにおける沖繩文化の振興や、継承、保存を目的とした組織があり会員総数は約4万人とのこと。

2025年でハワイ移民125周年と沖繩県との姉妹提携40周年を迎える記念事業も行われています。

センター内には県内各市町村の移民の歴史や、ハワイで1年通して行われている行事などの写真や資料が展示されていました。

また隣の庭には、「いざ行かん 我らの家は 五大州」の金武町から贈られた石と當山久三氏像があった。

夕方は、琉球舞踊と空手の希望研修。

仲地フランセス琉舞道場では、約10名の生徒が二週間後に控えたイベントに向けて一生懸命稽古に励んでいた。まだ始めて2年という県外の生徒もいましたが、琉球舞踊が好きになり、毎週の練習をコツコツ続けていいるとのこと、優雅な舞を披露してくださった。

また、見学を引き受けてくださった道場の皆さんへ風花さんの舞踊と私の京太郎を披露させていただくなど貴重な経験となった。

その後の空手道場では、仲宗根先生の少林流道場へ。

生徒さんは80歳の方もいて驚いた。

コロナ渦の影響を大きく受けたとのことで、当時生徒であった仲宗根先生が、道場を再始動させることに。私も体験させていただいたが、基礎の「正拳中断突き」の奥深さに衝撃を受けた。

空手の動作が野球などのほかのスポーツにも関連していることも再認識できた。

そして型もそれぞれの流派で大きく違い、異種の考え方も限られた時間ではあったが勉強なるとばかりで、実りある研修となった。

1月27日(火)

ビショップ博物館→マウイ島へ→水族館→村人会・親戚交流→マウイ沖繩会館→ホノルル

午前中は、ビショップ博物館へ

当博物館は、1889年にカメカメハ王家のバーニス・パウアヒ・ビショップ王女を追悼して、夫のチャールズ・リード・ビショップ氏によって建設されたとのこと。ハワイと太平洋諸島の文化、歴史、自然科学などの資料や展示などが多くあり、幅広く歴史について知ることができた。その後のガーデンツアーではハワイで育つ植物を見て回り、最後にはハワイの伝統的な首飾り「レイ」を製作した。

午後1時の便でマウイ島へ。

オアフ島からマウイ島へは飛行時間約30分。今まで乗った飛行機で一番短時間の飛行時間であった。

マウイ島の水族館へ訪れた後、村人会がお世話になっている日系人が住職をしている神社へ。

そこには、私の父のいとこ、二階堂みつ子さんと初めてお会いした。

父の母方の家系でハワイの1世である。日本語も上手で、これまでの移民の歴史や3年前のマウイ島の火事の話を知ることができた。

わたしは二階堂さんに、南米でお会いした親戚や自分の家族写真を見せながら情報共有した。

二階堂さんも腰が悪く、なかなか飛行機には乗ることができないとのことであった。

デイヴィッド村人会長へそのことを伝えると、ぜひ親戚に合わせたいとスケジュール調整してくださり、短い時間ではあったが濃密な時間であった。

1月28日(水)

ダイヤモンドヘッド→ハワイ日本文化センター→イオラニ宮殿→村人会送別会

ホースステイ先、平松アイリーンさん宅にて朝を迎えた。

朝食を食べながら、今まで学んだ英語でコミュニケーションをとることができたと思う。

午前中は仲間みなさんとオアフ島のシンボル ダイヤモンドヘッドへ。

山頂からはワイキキや街並み、海岸線など360度見渡せ、とても絶景で圧倒された。

ハワイの名物「ポキ丼」を食べての日本文化センターへでは、1868年以降の日本人の移民の歴史やサトウキビ農園での苦労、戦時中の日系人の歩みなどを深く学んだ。

ここで大事にされていたのは、日系社会に根付く感謝と思いやり「おかげさまで」という言葉に考えさせられた。

イオラニ宮殿の見学後、15分だけお別れ会の前にワイキキビーチへ。時間帯がサンセットタイムということもあり大勢の観光客で賑わっていて、世界的に有名な観光地の凄さを目の前にし、た

ただだ写真を撮っていた。

お別れ会では、別れのスピーチで5日間の思い出や勉強になったことを語った。

ハワイ村人会の歴代研修生は7人と少なく宜野座村との互いの密な連携が南米よりも大事だとメッセージを送った。

1月29日(木)

出国日

昨日の荷造りがとても大変であった。

朝、村人会の皆さんと朝ごはんを食べにレストランへ、最後の交流の時間であった。

今後も末永く交流を続けていくためにも村人会の若者の育成や、今後の村人会役員の担い手など課題が様々であって、沢山の意見が出た。

貴重な意見交換の時間となった。

デイヴィッド会長をはじめ、沢山の村人会の皆さん。

6日間と短い期間ではありましたが、1日1日が濃い日々を過ごすことができました。

ありがとうございました。

1月30日(金)

帰国

無事、那覇空港に到着。

この飛行機が計17回目の便であった。

大きなトラブルなく無事帰国したことに感謝の気持ちでいっぱいであった。

研修を経て

私は2年間、村職員として国際交流事業を担当として8名の研修生のサポートや各国村人会との連携を図ってきました。その中で「宜野座村の移民」についてもっと知るべきだと思い、今回の派遣事業に応募した。

過去に派遣された国際交流員からは、「各国のおもてなしは凄いのよ」といつも聞かされていたが、実際各現地へ訪れると想像を遥かに超えたおもてなしで驚いた。

私は運がよく南米・ハワイへ親戚がいて、今回会うことができた。宜野座村へ毎年来る研修生は、初めて自分の親戚に会い、毎週の受入親戚との交流を楽しみにしていたが私はそこまで楽しみにしている感覚がわからなかった部分があるが、この研修でその気持ちがようやくわかった。村人会活動には参加せず、疎遠状態の親戚もいたが、村人会が関係機関を聞きまわり、見つけてくださった。家族を代表して私が初めて会う親戚もいて不安の気持ちもあったが、「僕の家族だ」と思わせてくれる雰囲気と優しさが伝わり、とても嬉しい気持ちと会う機会をくださり、また通訳してくれた村人会に感謝の思いでいっぱい、つい涙がこぼれた。

各国村人会長、役員の方々が私たち二人に、ギノザンチュの移民の背景や村人会の歴史など細かく教えてくださった。そして現地の青年も、確かに日本語を話す人は減ってきているように感じたが、沖縄の伝統芸能「エイサーや三線、琉球舞踊」を愛し、率先して自分のルーツを知ろうとしている姿勢や私たち二人と交流する時間を大事にしている感じがした。次世代を担う若者同士の大事な時間であった。

今回初の海外で生活環境に食文化も大きく異なり苦勞する部分もあったが、移民したギノザンチュが生活してきた環境を肌で体感できるチャンスだと思い、沢山チャレンジすることができ、28歳でこれまでにない貴重な体験となった。

各国の世界遺産や有名な観光スポットに行くなど、人生で1度あるかないかのとても貴重で濃い経験となったが、今1番に思い出すのはこの期間交流してくださった村人会の皆さんに親戚である。

これから国際交流員となるが、担当してきた2年間と今回の研修得た経験で本事業をサポートしていきたいと思うとともに、各国の親戚と村人会の繋がり、そしてこれまで築いてきた本事業の歴史を大切に、SNS等をうまく活用しながら各国とのコミュニケーションを密に図り、少しでも貢献したいと思う。各国村人会が私と親戚を苦勞して会わせてくださったように、私も今後来る研修生のルーツ探しの力になりたいと感じた。

各国村人会の皆さん、36日間大変お世話になりました。
そしてわたしを派遣してくださった宜野座村、本当にありがとうございました。

資料

第17次 世界のギノザンチュ派遣青年研修生 スケジュール

※スケジュール内容及び時間については一部変更になることもあります。
・敬称略

2025/12/28 日	2025/12/29 月	2025/12/30 火	2025/12/31 水	2026/1/1 木	2026/1/2 金	2026/1/3 土	2026/1/4 日	2026/1/5 月
国際エセイサ空港 ブエノスアイレス着	BUENOS AIRES ブエノスアイレス	IGUAZU イグアスの滝	IGUAZU イグアスの滝	IGUAZU イグアスの滝	表敬訪問 9:30 「ブエノスアイ レス日亜学院」	沖縄県県人連合会運動場 「うるま園」 県人移民100 年記念碑		
UA831 7:20	市内視察 オベリスコ	エセイサ空港	世界最大の滝	町内視察				
ホームステイ先へ 新垣友貴	コロン劇場	ブエノスアイレス出発 AR1774; 7:45	アルゼンチン側				新年会	
玉城ビクトルの家	5月公園、大聖堂	AR1774; 7:45			LA PLATA	エコパーク 植物園	ブルサコ協和園 在亜宜野座村人会の 新年会	
高里 風花	リパルター文芸センター 書店「アテネオ」	ブエルト イグアス空 港 イグアス着						
長浜さゆりの家		AR1774; 9:40		ブエルト イグアス空港 イグアス出発 AR1771; 15:35 ブエノスアイレス着 AR1771; 17:35	ラ・プラタ	希望研修 沖縄県人連合会	アサード	エセイサ空港 LA2397; 17:15 ペルーへ出発 ペルー到着
日程調整 BA近代美術館 ラ・ボカ ブエルト マデロ	希望研修 屋宜宣明教室 空手道	昼食 イグアスの滝 ブラジル側			市内視察 科学博物館 大聖堂	17:00 「琉球舞踊」 17:30 「三線」 お稽古	1) 敬老会 2) 学事奨励会 3) 新年祝賀会 4) 研修生OBとの懇談会	
ウエルカム懇談会 タンゴショー	夕食 ホームステイ	同行者：前兼久成 子	大晦日 ディナー	夕食 ホームステイ	20:30 夕食 フォルクローレショー	夕食		

2026年1月 (第17次世界のギノザンチュ交流事業・派遣研修プログラム・ペルー国)									
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
5日				9日	10日	11日	12日	13日	水
5:00 a. m.									
6:00 a. m.									
7:00 a. m.	ベベペンション (研修生: 新垣友貴様と 高里風花様)	ベベペンション (研修生: 新垣友貴様と 高里風花様)	ベベペンション		クスコ見学 マツチュピッチュ Kusko**ホテル 責任者: 比嘉エミコ様 (第37次研修生2025年)	ベベペンション (研修生: 新垣友貴様と 高里風花様)	ベベペンション (研修生: 新垣友貴様と 高里風花様)	ベベペンション (研修生: 新垣友貴様と 高里風花様)	
8:00 a. m.	朝食; 仲田正憲と和子様の レストランで Chicharrones Don Luchito. https://share.google/vgu4VJFc2wvDQ0a7	日本入団体の見学: プラタニオン日系入団学校とAELU (ラニオン日系入団学校) 出発: LA2077便 出発: 9:45時 / クスコ到着: 11:15時	ベベペンション (研修生: 新垣友貴様と 高里風花様)						
9:00 a. m.	ニッピ文化会館の見学 (研修生: 新垣友貴様と 高里風花様) https://share.google/351290Lxh1SXYdpxj	南米日系入団学校と和子様の見学 (リナーダ・サンティアゴ・デ・ロス・リョス) https://share.google/kuPyeiX0J1arHK50							
10:00 a. m.									
11:00 a. m.									
12:00 p. m.									
1:00 p. m.									
2:00 p. m.									
3:00 p. m.									
4:00 p. m.									
5:00 p. m.									
6:00 p. m.									
7:00 p. m.									
8:00 p. m.									
9:00 p. m.									
10:00 p. m.									
11:00 p. m.									
12:00 a. m.									

第17次 世界のギノザンチュ派遣青年研修生 スケジュール
17th World Ginozanchu Young Trainee Training Schedule

※スケジュール内容及び時間については一部変更になることもあります。

*Some program details and times may be subject to change.

2026/1/14 水	2026/1/15 木	2026/1/16 金	2026/1/17 土	2026/1/18 日	2026/1/19 月	2026/1/20 火	2026/1/21 水	2026/1/22 木	2026/1/23 金
	カナオコーヒー工場 Caneão Coffee Factory	コーヒー農園 Coffee Farm	クラフトフェア Craft Fair	CPS X RJ転送 Transferred CPS X RJ リオデジャネイロを 訪れる Visit Rio de Janeiro	リオデジャネイロを 訪れる Visit Rio de Janeiro	リオデジャネイロを 訪れる Visit Rio de Janeiro	(高里風花) 斉藤道場 Satoru Sato Dojo (新垣トモキ) 空手道場 Karate Dojo	サンパウロ市内観光 City Tour in the city of São Paulo	ギフトショッピング Gift Shopping
ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ
グアルーリョスに到着 午後4時30分 グアルーリョスからCPSへの移籍 Arrived in Guarulhos 4:30 PM Transfer from Guarulhos to CPS	カンピナス大学 - UNICAMP University of Campinas - UNICAMP	ブラジル宜野座協会初代会長と の面会 Meeting with the first president of the Ginoza Association of Brazil	新年会 Shinnenkai	リオデジャネイロを 訪れる Visit Rio de Janeiro	リオデジャネイロを 訪れる Visit Rio de Janeiro	RJ/CPS転送 Transferred RJ X CPS	(高里風花) 斉藤道場 Satoru Sato Dojo (新垣トモキ) 親戚訪問 Visit to Tomoki Shigaki's relatives	サンパウロ市内観光 City Tour in the city of São Paulo	CPS X SP転送 Transferred CPS X Airport
夕食 パトリスナック Patropi Snacks	夕食 フロッグチキンステーキハ ウス Frog-chu Steakhouse	夕食 エステンシアグリルステーキハウ ス Estancia Grill Steakhouse	夕食	夕食	夕食	夕食 フォルニエイルレストラン Fornieiro Restaurant	夕食	夕食 ジンバーレストラン Zin Bar Restaurant	夕食 オリバーガーデンレストラン Oliver Garden Restaurant
								カラオケアロハ Karaoke Aloha	

Homestay: Moriya Edna

第17次 世界のギノザンチュ派遣青年研修生 ハワイ・スケジュール

※スケジュール内容及び時間については一部変更になることもあります。
 ※宜野座村・宜野座村人会関係者以外への配布・転送はご遠慮ください。

2026/01/24 土曜日	2026/01/25 日曜日	2026/01/26 月曜日	2026/01/27 火曜日	2026/01/28 水曜日	2026/01/29 木曜日
6:00					
7:00	朝食	朝食	朝食	朝食 (ホストファミリーと)	朝食 (ホストファミリーと)
8:00	ホテルを出る 新年宴会・会場入り	オアフ島研修 (パール・ハーバー)	オアフ島研修 (ピシヨップ博物館)	オアフ島研修 (ダイヤモンド・ヘッド)	
9:00					
10:00					空港に向かう
11:00		昼食	昼食	昼食	
12:00					
13:00	ハワイ宜野座村人会 新年宴会 11:00 - 15:00 Masa's Cafeteria (昼食含む)	ハワイ沖繩センター 12:30 - 13:30	Depart HNL 13:02 HA 1106 arrive OGG 13:47	オアフ島研修 (ハワイ日本文化センター)	出発 HNL 12:55 UA 7985 to HND
14:00	到着 in HNL 14:32 UA 0253 from IAH				
15:00	ホテル・チェックイン	買い物 休憩・準備	マウイ島研修 仮の予定 マウイ沖繩会館 Rinzai Zen Mission など	オアフ島研修 (イオラニ宮殿)	
16:00	モアナルア・ガーデンズ	買い物 休憩・準備			
17:00	村人会役員と食事会 Highway Inn Kakaako 16:30 - 18:00	玉城流扇舞会ハワイ フランセス仲地琉舞道場 (琉舞道場見学・参加) 17:00 - 18:30	マウイ島ギノザンチュと 食事会 空港に向かう	休憩・準備	
18:00	買い物 村人会からのプレゼント	夕食		送別会 (夕食) House of Wong 18:30 - 20:30	
19:00	村人会からのプレゼント	歴代研修生と交流会 Toma's Karaoke 18:00 - 21:00 (夕食含む)			
20:00	買い物 必須品・お土産	夕食			
21:00		宿泊: アラモアナ・ホテル	Depart OGG 21:00 HA 1225 arrive HNL 21:42		
22:00	宿泊: アラモアナ・ホテル	宿泊: アラモアナ・ホテル	宿泊: ホームステイ 新垣 (中田家) 高里 (仲間家)	宿泊: ホームステイ 新垣 (中田家) 高里 (仲間家)	
23:00					

村人会中心イベント

個人アポイントメント

一般研修

フライト情報

研修報告会の様子

令和8年3月11日（水）

村文化センターがらまんホールにて



会場ロビーでは各国の土産品を展示



一カ国目、アルゼンチンでの研修報告



三カ国目、ブラジル村人会座談会の報告



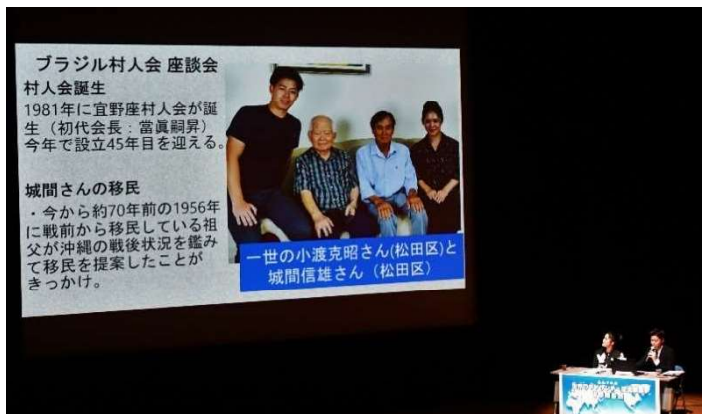
村青年国際交流員に委嘱されました。



開始前にスクリーンにて
過去受入事業の YouTube 動画を上映



研修生の高里風花さん（左）、新垣友貴さん（右）



三カ国目、ブラジル村人会座談会の報告



報告後の質疑応答（本事業の周知拡大についての質問）

< M E M O >